

# Oracle® Secure Global Desktop

---

ユーザーガイド (バージョン 4.6 用)

**ORACLE®**

Part No. 821-2157-10  
2010 年 8 月, Revision 01

Copyright © 2010 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

---



# 目次

---

はじめに vii

## 1. Oracle Secure Global Desktop の使用法 1

ログイン 1

ユーザー名とパスワード 2

▼ SGD にログインする方法 2

「安全でない可能性のある接続」メッセージ 6

▼ 「安全でない可能性のある接続」メッセージを処理する方法 6

SGD の Webtop 7

メニューバー 8

アプリケーション領域 8

印刷領域 9

情報領域 9

ユーザー名 9

セキュア接続の状態 9

アプリケーションの使用 10

アプリケーションの実行 10

アプリケーションのインスタンス数 11

アプリケーション起動時にエラーメッセージが表示されたらどうすれば  
よいか。 11

アプリケーションの起動時にチューザページが表示されたらどうすれば よいか。	12
アプリケーションの中断と再開	12
アプリケーションを制御するためのセッションツールバー	13
アプリケーションの再開機能の設定	13
ブラウザを閉じた場合に、作業内容が消失するかどうか	14
アプリケーションの表示方法の変更	15
アプリケーション間での情報のコピー	15
異なるユーザー名とパスワードによるアプリケーションの実行	16
1 つボタンの Apple Macintosh マウスの使用	16
印刷	16
印刷ジョブの管理	17
UNIX プラットフォームアプリケーションからの印刷	18
UNIX プラットフォームアプリケーションから UNIX 、Linux 、または Mac OS X プラットフォームコンピュータへの印刷	18
UNIX プラットフォームアプリケーションから Windows コンピュータへ の印刷	18
Windows アプリケーションからの印刷	19
Windows アプリケーションから UNIX 、Linux 、または Mac OS X プラ ットフォームコンピュータへの印刷	19
Windows アプリケーションから Windows コンピュータへの印刷	19
PDF 印刷	19
PDF 印刷の使用	20
印刷のトラブルシューティング	21
設定の変更	21
クライアント設定	22
プロファイルの編集	22
アプリケーショングループ	22
▼ グループを作成する方法	23
デスクトップの「スタート」または「起動」メニューからの SGD の使用	25

▼ デスクトップの「スタート」または「起動」メニューに SGD を追加する  
方法 25

「スタート」または「起動」メニューの操作 26

ログイン 26

Webtop の表示 27

アプリケーションの実行 27

印刷 27

アプリケーショングループの使用 27

My Desktop の使用 27

ログアウト 28

SGD Webtop からのログアウト 28

「スタート」または「起動」メニューによるログアウト 29

## A. SGD Client の手動インストール 31

SGD Client のインストール 31

▼ Microsoft Windows プラットフォームに SGD Client を手動でインストール  
する方法 32

▼ Solaris OS プラットフォームおよび Linux プラットフォームに SGD  
Client を手動でインストールする方法 33

SGD Client の起動 35

▼ SGD Client を設定する方法 35

## B. 詳細設定 37

クライアント設定 37

ログインページの URL の変更 38

言語の変更 38

プロキシ設定の変更 38

代替 PDF ビューアの指定 38

印刷 39

クライアントプリンタの設定 39

コンピュータ上のドライブへのアクセス 40

取り外し可能ドライブの使用 41

## **C. プロファイルの設定 43**

プロファイル設定の説明 43

統合モード動作の設定 45

用語集 47

# はじめに

---

*Oracle Secure Global Desktop 4.6 ユーザーガイド*では、Oracle Secure Global Desktop (SGD) の使用方法を紹介します。このマニュアルでは、SGD を使ってアプリケーションを実行する方法についての情報を提供します。このマニュアルは、SGD の新規ユーザーおよび既存ユーザーの両方を対象としています。

---

## 内容の紹介

**第 1 章**では、SGD を使ってコンピュータからアプリケーションを実行する方法について説明します。

**付録 A**では、SGD Client をコンピュータに手動でインストールする方法について説明します。

**付録 B**では、SGD の上級ユーザー向けの設定について説明します。

**付録 C**では、利用可能なプロファイル設定について説明します。

単語や語句とその定義から成る用語集も含まれています。

---

## 関連マニュアル

次の表は、この製品に関するマニュアルの一覧を示しています。オンラインマニュアルは、次のサイトで参照できます。

アプリケーション	タイトル	Part Number	形式	ロケーション
リリースノート	Oracle Secure Global Desktop 4.6 Platform Support and Release Notes	821-1928	HTML PDF	オンライン DVD メディアおよびオンライン
インストール	Oracle Secure Global Desktop 4.6 インストールガイド	821-2162	HTML PDF	オンライン DVD メディアおよびオンライン
管理	Oracle Secure Global Desktop 4.6 管理者ガイド	821-2167	HTML PDF	オンライン
ユーザー	Oracle Secure Global Desktop 4.6 ユーザーガイド	821-2157	HTML PDF	オンライン
プロキシサーバー	Oracle Secure Global Desktop 4.6 Gateway 管理者ガイド	821-2166	HTML PDF	オンライン

## マニュアルのフィードバック

このマニュアルに関するコメントは、<http://docs.sun.com> で Feedback[+] リンクをクリックして送付してください。フィードバックには、次のように、マニュアルのタイトルと Part Number を含めるようにしてください。

Oracle Secure Global Desktop 4.6 ユーザーガイド、Part Number 821-2157



# 第1章

---

## Oracle Secure Global Desktop の使用法

---

Oracle Secure Global Desktop (SGD) には、アプリケーションサーバー上で実行されているデスクトップアプリケーションに対する、セキュリティー保護されたリモートアクセス機能が用意されています。

SGD を使用すると、オフィス内のコンピュータでレポートを作成することも、自宅の PC 上で UNIX® プラットフォームのサーバーを管理することも、列車内でノート PC を使って株価データベースを調べることも、すべてが可能になります。

また、セキュアセットワーク接続経由でアプリケーションを実行することにより、企業データや個人情報を保護できます。

SGD を使用すると、実行可能なすべてのアプリケーションを 1 つの場所 (Webtop) から利用できます。

Webtop にアクセスするために必要なものは、Java™ テクノロジーに対応したブラウザだけです。

このマニュアルでは SGD の基本的な使用方法について説明します。このソフトウェアにログインおよびログアウトする方法や、SGD を使ってアプリケーションを実行する方法について説明します。

---

## ログイン

ここでは、SGD にログインする方法について説明し、SGD の Webtop を表示します。

# ユーザー名とパスワード

SGD を使用する場合、次の各サーバーのユーザー名とパスワードを知る必要があります。

- SGD サーバー
- アプリケーションを実行するアプリケーションサーバー

次の表では、SGD を使用する際に必要となる可能性のあるユーザー名とパスワードについて説明します。

ユーザー名とパスワード	説明
SGD サーバー	SGD にログインする際に、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。これは、SGD サーバーがユーザーを認識し、そのユーザーの Webtop を表示できるようにするユーザー名とパスワードです。SGD への次のログイン時まで、このパスワードを再度入力する必要はありません。 また、匿名で、つまりユーザー名とパスワードを入力せずに、SGD にログインすることもできます。 パスワードの有効期限が切れているか有効期限が近付いている場合は、パスワードを変更するように求められることがあります。
アプリケーションサーバー	アプリケーションを起動する際に、アプリケーションを起動するアプリケーションサーバー用のパスワードを入力する必要があります。SGD サーバーはこれらのパスワードを記憶できるため、ユーザーがそれらを毎回入力する必要はありません。ユーザー名とパスワードの入力時に「このパスワードを保存する」オプションが使用できる場合は、それを使用します。 別のユーザー名とパスワードを使ってアプリケーションを起動したい場合、SGD にユーザー名とパスワードの入力を要求させることができます。

## ▼ SGD にログインする方法

SGD にログインする前に、次の要件が満たされているか確認してください。

- JavaScript™ ソフトウェアがブラウザで有効になっている
- Java テクノロジーがブラウザで有効になっている

**注** - Java テクノロジーがブラウザで有効になっていない場合は、SGD Client プログラムをコンピュータにダウンロードできます。詳細については、[31 ページの「SGD Client のインストール」](#)を参照してください。

- SGD サーバーのユーザー名とパスワードがわかっている。ユーザー名とパスワードが不明な場合は、SGD 管理者に連絡してください。

- SGD サーバーのログイン URL (Uniform Resource Locator) がわかっている。  
SGD ログインページの URL が不明な場合は、SGD 管理者に連絡してください。

1. ブラウザを使用して SGD のログイン URL にアクセスします。

SGD のログイン URL は通常、`http://server.example.com/sgd` です。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。

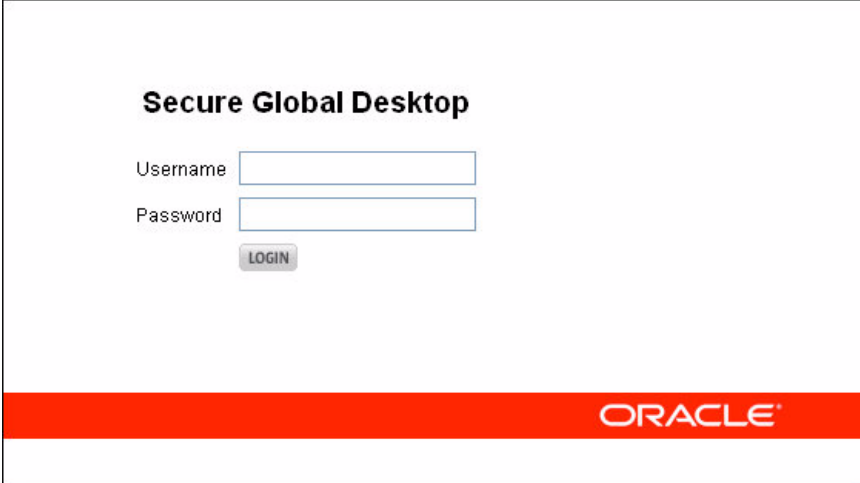
---

**注** - Java テクノロジがブラウザで有効になっていない場合、警告メッセージが表示されます。処理を続行するには、Java テクノロジをブラウザで有効にする必要があります。

---

SGD ログインダイアログボックスが表示されます。[図 1-1](#) を参照してください。

**図 1-1** SGD ログインダイアログボックス



ログインダイアログボックス

---

**注** - JavaScript がブラウザで有効になっていない場合、ログインダイアログボックスの下に警告メッセージが表示されます。

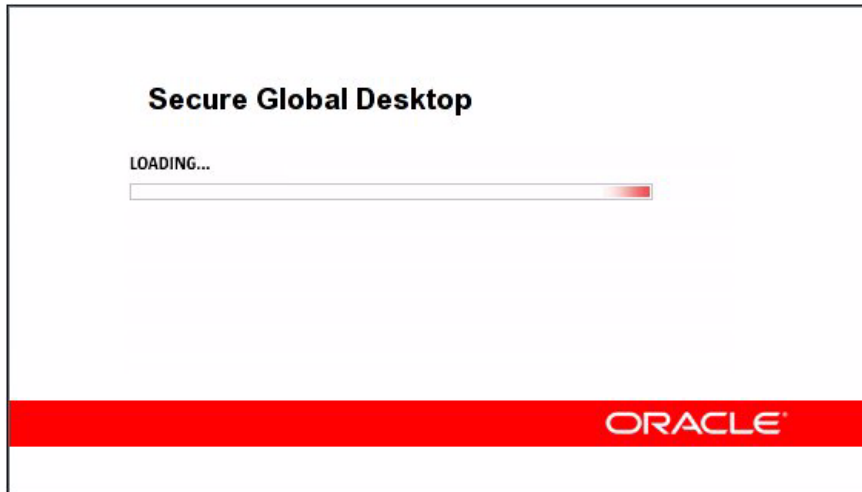
---

2. SGD のユーザー名とパスワードを入力します。

3. 「ログイン」ボタンをクリックします。

SGD の起動中はスプラッシュコマンドが表示されます。[図 1-2](#) を参照してください。

図 1-2 SGD のスプラッシュ画面



SGD のスプラッシュ画面

Java テクノロジーのセキュリティー警告が表示されます。これは、SGD サーバーへの初回接続時に表示されるセキュリティーメッセージです。図 1-3 を参照してください。

図 1-3 Java テクノロジーのセキュリティー警告ダイアログボックス



Java テクノロジーのセキュリティー警告ダイアログボックス

「Always Trust Content From This Publisher」オプションを選択し、「Run」をクリックします。

初期接続ダイアログボックスが表示されます。これは、SGD サーバーへの初回接続時に表示されるセキュリティーメッセージです。図 1-4 を参照してください。

図 1-4 初期接続ダイアログボックス

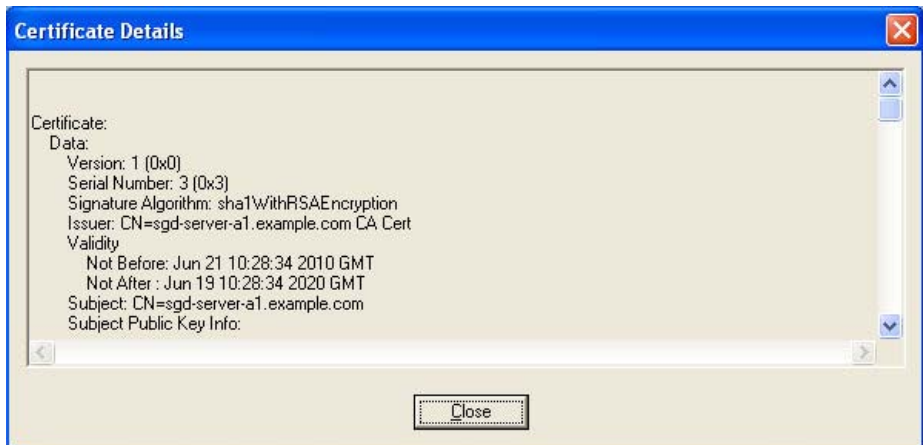


初期接続ダイアログボックス

4. (省略可能) 「証明書の表示」ボタンをクリックします。

「証明書の詳細」ダイアログボックスが表示されます。この画面では、セキュリティー証明書の詳細を表示し、接続先のサーバーが信頼できるかどうかを確認することができます。図 1-5 を参照してください。

図 1-5 「証明書の詳細」ダイアログボックス



「証明書の詳細」ダイアログボックス

a. 「有効期間」および「サブジェクト」フィールドが正しいことを確認します。

b. 「閉じる」をクリックします。

初期接続ダイアログボックスが再度表示されます。

5. 証明書の詳細が正しければ、「はい」をクリックして接続に同意します。

「はい」をクリックすると、接続に問題がある場合を除いて、このセキュリティメッセージが再度表示されることはありません。

SGD Client アイコンがタスクバーに表示されます (図 1-6 を参照)。

図 1-6 SGD Client タスクバーアイコン



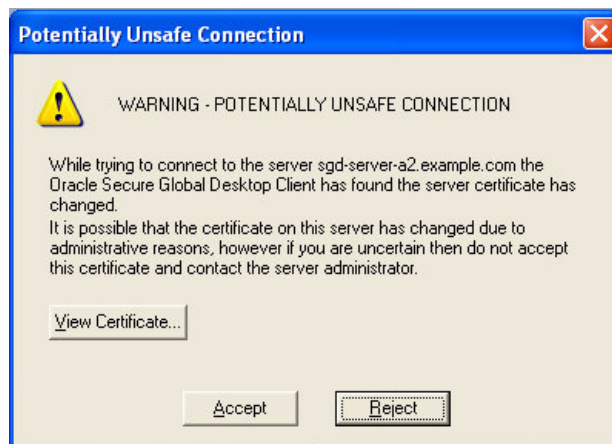
SGD Client アイコン

SGD の Webtop が表示されます。図 1-8 を参照してください。

## 「安全でない可能性のある接続」メッセージ

SGD サーバーへの接続にセキュリティ上の問題が存在する場合は、「安全でない可能性のある接続」メッセージが表示されます (図 1-7 を参照)。

図 1-7 「安全でない可能性のある接続」メッセージ



「安全でない可能性のある接続」メッセージ

「安全でない可能性のある接続」メッセージが表示された場合には、次の手順を実行します。

### ▼ 「安全でない可能性のある接続」メッセージを処理する方法

1. 「証明書の表示」ボタンをクリックし、証明書の詳細を書き留めます。

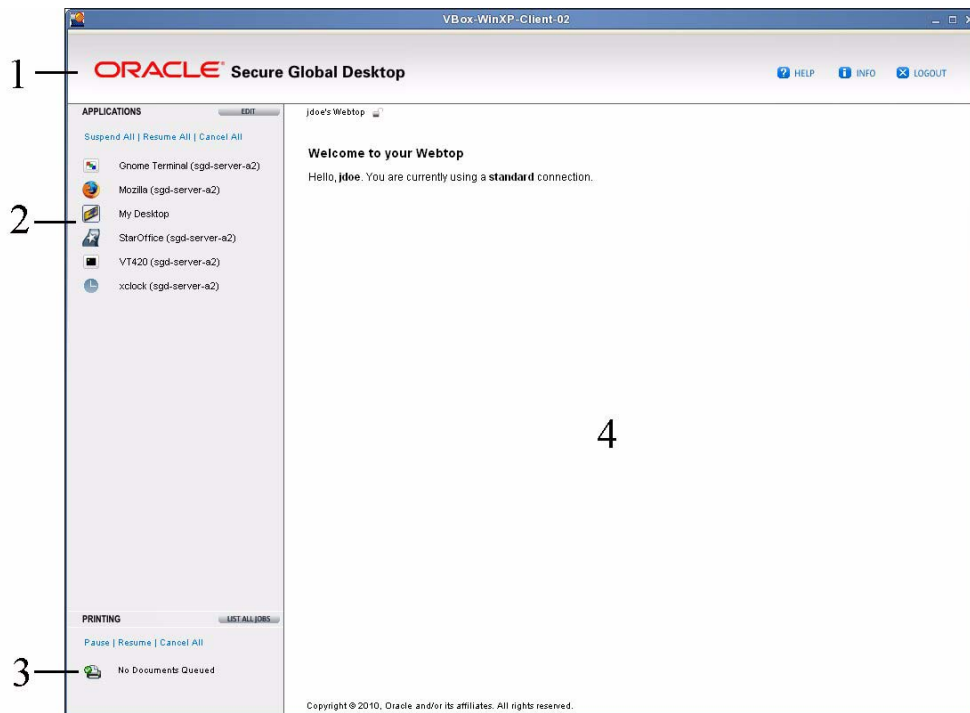
2. 「拒否する」ボタンをクリックして接続を取り消し、SGD 管理者に連絡してください。

## SGD の Webtop

Webtop は特殊な Web ページであり、SGD 経由で実行できるアプリケーションを一覧表示し、ユーザーがそれらを実行できるようにします。

図 1-8 に、Webtop のさまざまな領域を示します。

図 1-8 SGD の Webtop



SGD の Webtop 。 Webtop のさまざまな領域が表示された状態

#	名前	説明
1	メニューバー	「ログアウト」、「ヘルプ」、および「情報」ボタンが含まれます
2	アプリケーション領域	実行可能なアプリケーションを一覧表示します
3	印刷領域	印刷ジョブを管理できるようにします
4	情報領域	エラーメッセージおよびシステム情報を表示します

次の各節では、Webtop のさまざまな領域について説明します。

## メニューバー

Webtop のこの領域には、ログアウト用のボタンと、ヘルプおよび診断情報を表示するためのボタンが含まれます。

SGD のログアウトの詳細については、[28 ページの「ログアウト」](#)を参照してください。

Webtop から、診断情報を含むページを表示できます。これは、サポートに連絡する必要がある場合に役立ちます。

Webtop 上の「情報」ボタン  「情報」ボタンをクリックし、続いて情報領域の「詳細な診断」リンクをクリックします。

## アプリケーション領域

Webtop のアプリケーション領域は、SGD 経由で実行可能なアプリケーションのリストを表示するために使用されます。

アプリケーションの実行方法の詳細については、[10 ページの「アプリケーションの使用」](#)を参照してください。

実行可能なアプリケーションのリストにアプリケーションの追加や削除を実行できるのは、SGD 管理者だけです。実行可能なアプリケーションを増やす場合は、SGD 管理者に連絡してください。ただし、アプリケーションを Webtop にいつ、どのように表示するかを設定することは可能です。これを設定するには、Webtop グループを作成します。[22 ページの「アプリケーショングループ」](#)を参照してください。



## 印刷領域

Webtop の印刷領域には、印刷ジョブの一覧表示と制御を可能にするリンクが含まれます。

印刷の詳細については、[16 ページの「印刷」](#)を参照してください。

## 情報領域

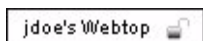
情報領域は、エラーメッセージおよびシステム情報を表示するために使用されます。表示される情報は次のとおりです。

- ユーザー名
- セキュア接続の状態
- LDAP および Active Directory アカウントのパスワード有効期限のメッセージ

## ユーザー名

SGD ユーザー名は、Webtop ツールバーの南京錠のアイコンの横に表示されます ( [図 1-9](#) を参照 ) 。

**図 1-9** Webtop ツールバー上に表示されたユーザー名




Webtop ツールバー上に表示されたユーザー名

ツールバーに「ゲストユーザー」としてログインしていることが表示された場合は、ユーザー名とパスワードを入力しないでログイン (匿名ログインと呼ばれる) したか、使用中の Webtop がほかのユーザーと共有されています。

これらの詳細は、初回ログイン時に Webtop にも表示されます。

## セキュア接続の状態

セキュア接続を使用している場合は、ロックされた南京錠のアイコン  南京錠のアイコン

が Webtop メニューバーの下に表示されます。また、初回のログイン時に、Webtop 上のページにセキュア接続と標準接続のどちらを使用しているかが示されます。

SGD に対するセキュア接続が使用可能なのは、SGD 管理者がそれらを有効にした場合だけです。

セキュア接続を自動的に受信できない場合や、特定の状況下でセキュア接続だけを取得できる場合もあります。必要な時にセキュア接続が確立できない場合は、SGD 管理者に連絡してください。

---

## アプリケーションの使用

アプリケーションの起動、停止、および管理を行うには、Webtop のアプリケーション領域を使用します。

### アプリケーションの実行

アプリケーションを起動するには、Webtop 上のアプリケーションのリンクをクリックします (図 1-10 を参照)。数秒の間にアプリケーションが表示され、使用する準備が整います。

図 1-10      アプリケーション実行用の Webtop リンク



アプリケーション実行用の Webtop リンク

アプリケーションを起動すると、ユーザー名とパスワードの入力を要求される場合があります。これは、そのアプリケーションを実行するアプリケーションサーバーに対するユーザー名とパスワードです。

別のアプリケーションを起動する前にアプリケーションを終了する必要はありません。単に別のリンクをクリックします。

SGD 管理者は、アプリケーションの表示方法を設定します。

---

**注** - 異なる Windows ドメイン名を使用した Windows アプリケーションを起動することはできません。SGD 管理者に設定を依頼してください。

---

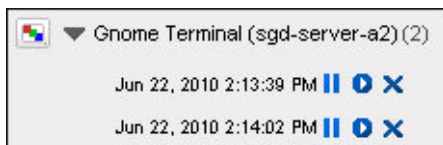
問題が発生した場合は、SGD 管理者に連絡してください。

デスクトップの「スタート」または「起動」メニューのリンクを使ってアプリケーションを実行することもできます。詳細については、[25 ページの「デスクトップの「スタート」または「起動」メニューからの SGD の使用」](#)を参照してください。

## アプリケーションのインスタンス数

あるアプリケーションが実行中である場合、Webtop 上でそのアプリケーションの名前の前に三角形が、その後ろに括弧で囲まれた数字が、それぞれ表示されます。セッションツールバーも、アプリケーション名の下に表示されます。セッションツールバーは、アプリケーションの中断、再開、または終了に使用されます。図 1-11 に、アプリケーションの 2 つのインスタンスが実行されている場合の Webtop リンクを示します。

図 1-11 アプリケーション実行中の Webtop リンク



アプリケーション実行中の Webtop リンクの詳細

括弧内の数字は、ユーザーが起動したアプリケーションの独立したインスタンスの個数です。SGD 管理者は、起動可能なアプリケーションのインスタンス数を設定します。実行可能なアプリケーションのインスタンス数を確認するには、Webtop 上のリンクにマウスポインタを移動します。ポップアップウィンドウに使用可能なセッション数が表示されます。

詳細については、12 ページの「アプリケーションの中断と再開」を参照してください。

## アプリケーション起動時にエラーメッセージが表示されたらどうすればよいか。

アプリケーション起動用リンクをクリックしたときに、エラーメッセージが表示された場合は、次のいずれかを試してください。

- アプリケーションサーバー用の正しいユーザー名とパスワードを入力したことを確認します。SGD からこの情報が要求されない場合は、Shift キーを押しながらリンクをクリックしてプロンプトを強制的に表示させます。
- SGD からログアウトし、ブラウザを終了してから再起動し、SGD に再度ログインします。アプリケーションのリンクをクリックします。
- SGD 管理者に連絡して、エラーメッセージに表示されるすべての情報を伝えます。

アプリケーションの起動時にチューザページが表示され  
たらどうすればよいか。

アプリケーションを起動するリンクをクリックしたときに、情報領域にチューザページが表示される場合があります。

アプリケーションの設定方法に応じて、チューザページを使用して、アプリケーションを実行するアプリケーションサーバーを選択したり、起動されるアプリケーションを選択したり、その両方を選択したりすることができます。

図 1-12 チューザページ、アプリケーションサーバーの選択

### Select an Option:

Type	Server	Description
<input type="radio"/>	unix SGD server sgd-server-a2	SGD server sgd-server-a2 - sgd-server-a2.example.com
<input checked="" type="radio"/>	unix SGD server sgd-server-a1	SGD server sgd-server-a1 - sgd-server-a1.example.com

Start Cancel

チューザページ、アプリケーションサーバーの選択

チューザページは、すべてのアプリケーションで自動的に表示されるわけではありません。SGD 管理者が設定する必要があります。

## アプリケーションの中断と再開

アプリケーションの中には、表示されていなくても実行し続けるように設定されるものもあります。それらは「再開可能な」アプリケーションです。

アプリケーションを終了しないでそのアプリケーションのウィンドウを閉じるには、アプリケーションを *中断* します。ウィンドウを再度表示してアプリケーションを使い始めるには、アプリケーションを *再開* します。

アプリケーションは表示されていなくても引き続き実行されているため、オフィスで急ぎのレポートの作成を開始し、一日の終わりに SGD からログアウトできます。アプリケーションは中断されています。帰宅したあとで SGD に再度ログインしてアプリケーションを再開し、レポートの続きを作成できます。

アプリケーションの中断と再開は、Webtop 上のセッションツールバーを使って行います。

## アプリケーションを制御するためのセッションツールバー

セッションツールバーは、アプリケーションの実行中のインスタンスごとに存在します。




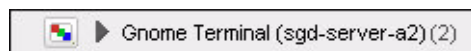
- 中断ボタンをクリックすると、
- アプリケーションが中断されます
- 再開ボタンをクリックすると、
- アプリケーションが再開されます
- 取り消しボタンをクリックすると、
- アプリケーションが終了します

図 1-13 に示すように、アプリケーションセッションのセッションツールバーの表示 / 非表示を切り替えるには、三角形をクリックします。

図 1-13 非表示状態のセッションツールバー

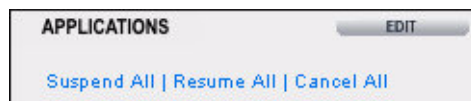


非表示状態のセッションツールバー

アプリケーション領域の最上部にある次の各リンクを使えば、すべてのアプリケーションセッションを一度に管理できます。

- 実行中のすべてのアプリケーションを中断するには、「すべて中断」リンクをクリックします
- 中断されているすべてのアプリケーションを再開するには、「すべて再開」リンクをクリックします
- 実行中のアプリケーションや中断されているアプリケーションをすべて終了するには、「すべて取消し」リンクをクリックします

図 1-14 すべてのアプリケーションセッションを管理するためのリンク



アプリケーションセッション管理用のリンク

## アプリケーションの再開機能の設定

アプリケーションが再開可能かどうか調べるには、Webtop 上のリンクにマウスポインタを移動して、表示されるポップアップウィンドウを確認します。

次の表では、アプリケーションで使用可能な再開機能設定について説明します。

再開機能の設定値	説明
再開不可能	ユーザーが SGD からログアウトすると、このアプリケーションは終了します。再開可能でないアプリケーションを中断または再開することはできません。 <b>注</b> - 再開可能でないアプリケーションでは、セッションツールバーに取り消しボタンしか表示されません。
ログアウト時まで再開可能	このアプリケーションは、ユーザーが SGD からログアウトするまで動作し続けます。ログインしている間は、これらのアプリケーションを中断および再開できます。
常に再開可能	このアプリケーションは、ユーザーが SGD からログアウトしたあとも動作し続けます。再度ログインした際に、再開ボタンをクリックすると、実行中のアプリケーションが再度表示されます。

**注** - ユーザー名とパスワードを入力しないで SGD にログインした場合、再開可能なアプリケーションを再開できるのは、ログアウトするまでの期間だけです。

## ブラウザを閉じた場合に、作業内容が消失するかどうか

ログアウトしないでブラウザを誤って閉じたり、ブラウザがクラッシュしたりしても、作業内容が消失することはありません。ブラウザを再起動して SGD にログインすれば、Webtop を表示できます。

ただし、SGD Client が予期せず終了した場合やユーザーが SGD Client を閉じた場合、あるアプリケーションを再開できるかどうかは、SGD 管理者がそのアプリケーションをどのように設定したかと、ユーザーがどのような方法で SGD にログインしたかによって決まります。

- 「再開不可能」に設定されたアプリケーションは、SGD Client が終了するか閉じられると終了します。一般に、1 回に短い時間使用するだけで、業務上重要な機能でないアプリケーションは、再開不能に設定されます。
- 「常に再開可能」または「ログアウト時まで再開可能」に設定されたアプリケーションは、SGD Client が終了するか閉じられたあとも、ある一定期間実行し続けます。単にブラウザを再起動してから SGD に再びログインし、動作中のアプリケーションを再開します。
- SGD に匿名でログインした場合、つまりユーザー名とパスワードを入力しなかった場合、あるいは共有 Webtop (複数のユーザーが同じユーザー名とパスワードを使ってログインする Webtop) を使用している場合は、SGD Client が終了するか閉じられると、アプリケーションは終了します。なぜなら、どちらの場合もユー

ザーが一意のユーザー名とパスワードを使用しないために、SGD に再度ログインしたユーザーが以前と同じユーザーかどうかを SGD が判断できないからです。  
[9 ページの「ユーザー名」](#)も参照してください。

## アプリケーションの表示方法の変更

SGD 管理者が、アプリケーションのデスクトップ上での表示方法を定義します。たとえば、アプリケーションがフルスクリーン表示されるかそれともデスクトップウィンドウ内に表示されるか、などです。

デスクトップウィンドウ内に表示されるグラフィカルアプリケーションは、ウィンドウのサイズに合わせて拡大縮小することができます。ウィンドウのサイズを変更すると、SGD によって新しいウィンドウのサイズに合わせてアプリケーションが再度拡大縮小され、スクロールバーは表示されません。

Scroll Lock キーを押すことで、アプリケーションの拡大縮小の有効化 / 無効化を切り替えることができます。

アプリケーションがスケーラブルウィンドウに表示されているかどうかを調べるには、Webtop 上のリンクにマウスポインタを移動して、表示されるポップアップを確認します。あるいは、ウィンドウ下部のステータスバーを確認します。

## アプリケーション間での情報のコピー

*Windows* アプリケーションおよび *X* アプリケーションでは、コピー元のアプリケーションで通常の方法でコピーしてから、コピー先のアプリケーションで通常の方法でペーストします。アプリケーションによっては、情報のコピー&ペーストが許可されない場合があります。この動作は、SGD 管理者により設定されます。アプリケーション間のコピー&ペーストが許可されない場合、コピーした情報の代わりに次のメッセージがペーストされます。

```
Oracle Secure Global Desktop Software: Copied data not
available to this application
```

文字型アプリケーションの場合、マウスの右ボタンでクリックしてから、「コピー」または「ペースト」を適切にクリックします。テキストのカラムを選択するには、Shift キーを押しながらテキストを選択します。

タイプの異なるアプリケーション間で情報をコピーできます。たとえば、アプリケーションサーバー上で実行している *xterm* から、コンピュータ上で実行しているテキストエディタにコピーできます。

グラフィックスのコピー&ペーストは、Windows のアプリケーションでのみ可能です。

# 異なるユーザー名とパスワードによるアプリケーションの実行

あるアプリケーションを起動する際にユーザー名とパスワードの入力を SGD に要求させるには、Shift キーを押しながら、Webtop 上のそのアプリケーションのリンクをクリックします。

ユーザー名とパスワードの入力をこのような方法で SGD に要求させるということは、アプリケーションサーバー用にすでに保存されているユーザー名とパスワードを SGD が使用しないことを意味します。別のユーザーとしてアプリケーションを起動したい場合に役立ちます。

「このパスワードを保存」チェックボックスが選択された場合、新しいユーザー名とパスワードが保存され、このアプリケーションサーバー上にそれまで保存されていたユーザー名とパスワードは置き換えられます。このユーザー名とパスワードは、このアプリケーションサーバー上で起動する他のすべてのアプリケーションに使用されます。

次の場合には、Shift キーを押しても何の効果もありません。

- SGD に匿名ユーザーまたは共有ユーザーでログインしている場合。
- アプリケーションを起動するためのリンクが、デスクトップの「スタート」または「起動」メニュー内に存在している場合。Shift キープロンプトが正しく機能するのは、Webtop 上のリンクに対してだけです。

## 1 つボタンの Apple Macintosh マウスの使用

多くの Microsoft Windows アプリケーションおよび X アプリケーションは、マウスの中ボタンやマウスの右ボタンを使用します。このようなアプリケーションを 1 つボタンの Apple Macintosh マウスで使用するには、キーボード上の次のいずれかのキーを押しながらボタンをクリックします。

- マウスの中ボタンをクリックする代わりに、Alt キーを押しながらマウスのボタンをクリックします
- マウスの右ボタンをクリックする代わりに、Command キーを押しながらマウスのボタンをクリックします

---

## 印刷

SGD では、アプリケーションから、コンピュータに接続されたプリンタに印刷することができます。



通常、印刷に使用するプリンタを選択できます。ただし、一部のアプリケーションでは、デフォルトのプリンタにしか印刷できない場合があります。

## 印刷ジョブの管理

印刷ジョブの管理には、**Webtop** の印刷領域を使用します。印刷領域には、印刷キュー内の現在のジョブ数、および印刷ジョブの管理用コントロールが表示されます (図 1-15 を参照)。

図 1-15 SGD Webtop の印刷領域



SGD Webtop の印刷領域

ドキュメントが印刷中である場合、印刷キュー内の印刷ジョブの個数が **Webtop** 上に表示されます。

印刷を一時的に停止するには、「一時停止」リンクをクリックします。印刷が一時停止されると、プリンタアイコンの表示が変わります (図 1-16 を参照)。

図 1-16 印刷一時停止アイコン



印刷一時停止アイコン

印刷を一時停止した場合、保留中の印刷ジョブはすべて、ユーザーが印刷を取り消すか再開するまで印刷キュー内に保持されます。

一時停止した印刷を再開するには、「再開」リンクをクリックします。

印刷ジョブをすべて削除するには、「すべて取消し」リンクをクリックします。

印刷ジョブを個別に管理するには、「すべてのジョブのリスト」ボタンをクリックします。**Webtop** に、キュー内のすべての印刷ジョブの一覧とそれらの各ジョブの情報が表示されます。たとえば、コピー枚数や使用するプリンタなどです。

印刷が一時停止された状態で  再開ボタンをクリックすると、

その印刷ジョブだけが印刷されます。

特定の印刷ジョブを取り消すには、 取り消しボタンをクリックします

## UNIX プラットフォームアプリケーションからの印刷

SGD では、UNIX プラットフォームアプリケーションから、コンピュータに接続されたプリンタに印刷することができます。

## UNIX プラットフォームアプリケーションから UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームコンピュータへの印刷

アプリケーションサーバー上の端末ウィンドウから、デフォルトプリンタにファイルを印刷するには、次のコマンドを入力します。

```
$ lp file
```

あるいは、SGD 管理者が設定した任意のクライアントプリンタを指定することもできます。

たとえば、`salesprinter` という名前のクライアントプリンタが SGD 管理者によって設定されている場合、次のコマンドを使用できます。

```
$ lp -d salesprinter file
```

## UNIX プラットフォームアプリケーションから Windows コンピュータへの印刷

次のコマンドを実行すると、`file` が Windows コンピュータ上のデフォルトプリンタに印刷されます。

```
$ lp file
```

コンピュータ上のあるポートに印刷することもできます。次に例を示します。

```
$ lp -d LPT1: file
```

また、コンピュータからアクセス可能なネットワークプリンタの UNC (Universal Naming Convention) 名を指定して印刷することもできます。UNC 名を使用するには、プリンタ名を引用符で囲み、シェルに応じた方法でバックスラッシュをエスケープする必要があります。次に例を示します。

```
$ lp -d '\\\\PRTSERVER\\HPLJ5' file
```

UNC 名の問題を回避するには、次のような「フレンドリ」な名前を使って印刷します。

```
$ lp -d label-printer file
```

この場合、SGD 管理者によってこのフレンドリな名前が設定されている必要があります。

## Windows アプリケーションからの印刷

SGD では、Windows アプリケーションから、コンピュータに接続されたプリンタに印刷することができます。

### Windows アプリケーションから UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームコンピュータへの印刷

Microsoft Windows アプリケーションから UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームコンピュータへの印刷を行うと、SGD 管理者によって設定されたクライアントプリンタが表示されます。

ユーザー独自のクライアントプリンタを設定する方法の詳細については、[39 ページの「クライアントプリンタの設定」](#)を参照してください。

### Windows アプリケーションから Windows コンピュータへの印刷

Microsoft Windows アプリケーションから Microsoft Windows コンピュータへの印刷を行うと、クライアントに接続されたプリンタの一部またはすべてが表示されるか、まったく表示されません。さらに、アプリケーションサーバーに直接接続されたプリンタも表示されます。

## PDF 印刷

SGD では、PDF (Portable Document Format) 印刷を使用することもできます。その場合、Adobe PDF 形式を使用することでプリンタドライバの問題の多くが避けられます。

SGD には、「Universal PDF Printer」と「Universal PDF Viewer」の2種類のPDF プリンタが存在します。

Microsoft Windows コンピュータでは、「 Universal PDF Printer 」プリンタは、印刷ジョブを Adobe Reader 内の PDF ファイルとして表示します。この PDF ファイルはデフォルトプリンタで印刷されます。「 Universal PDF Viewer 」プリンタは、印刷ジョブを Adobe Reader 内の PDF ファイルとして表示します。ユーザーは、PDF ファイルを印刷するかまたは保存するかを決定できます。

UNIX 、 Linux 、および Mac OS X プラットフォームのコンピュータでは、「 Universal PDF Printer 」プリンタと「 Universal PDF Viewer 」プリンタに違いはありません。印刷ジョブは常に PDF ビューア内の PDF ファイルとして表示されます。ユーザーは、PDF ファイルを印刷するかまたは保存するかを決定できます。

## PDF 印刷の使用

Windows アプリケーションから通常の方法で印刷を実行し、アプリケーションの「印刷」ダイアログボックスで「 Universal PDF Printer 」または「 Universal PDF Viewer 」を選択します。

UNIX または Linux プラットフォームのアプリケーションサーバー上で実行されているアプリケーションから印刷するには、印刷コマンドの一部として PDF プリンタを指定しながら通常の方法で印刷します。次に例を示します。

```
$ lp -d "Universal PDF Printer" file
```

```
$ lpr -P "Universal PDF Viewer" file
```

*file* は PostScript ファイルである必要があるため、アプリケーションが PostScript を出力できる必要があります。

Windows コンピュータでは、PDF ファイルは Adobe Reader に表示されます。ユーザーが選択するプリンタに応じて、次のいずれかが適用されます。

- 「 Universal PDF Printer 」プリンタが選択されている場合、PDF ファイルは自動的にデフォルトプリンタで印刷されます。Adobe Reader は最小化された状態で実行され、印刷ジョブが完了しても終了しません。
- 「 Universal PDF Viewer 」プリンタが選択されている場合、PDF ファイルは Adobe Reader のウィンドウに表示されます。ユーザーは、このファイルを印刷するかまたは保存するかを決定できます。

UNIX 、 Linux 、および Mac OS X プラットフォームのコンピュータでは、PDF ファイルは PDF ビューアに表示されます。ユーザーは、PDF ファイルを印刷するかまたは保存するかを決定できます。印刷ジョブは常に PDF ビューアに表示されるため、「 Universal PDF Printer 」プリンタと「 Universal PDF Viewer 」プリンタに違いはありません。

# 印刷のトラブルシューティング

アプリケーションから印刷しても出力されない場合には、次の点を確認してください。

考えられる原因	詳細情報
印刷を一時停止しましたか。	Webtop 上に印刷が一時停止されていることを示す情報がないことを確認します。17 ページの「印刷一時停止アイコン」を参照してください。
プリンタは正しく設定されていますか。	プリンタが正しく設定されているか確認します。それにはたとえば、ブラウザから Web ページをプリンタに印刷します。
適切なプリンタに対して印刷を実行しましたか。	印刷先のプリンタを選択できます。プリンタを選択しない場合、出力はデフォルトのプリンタに送信されます。 どのプリンタがデフォルトプリンタであるかを確認するには、Webtop 上のプリンタアイコンをポイントします。ポップアップが表示され、そこにデフォルトプリンタの名前が表示されます。 デフォルトプリンタを変更するには、SGD からいったんログアウトしてデフォルトプリンタを変更したあと、SGD に再度ログインする必要があります。
「利用可能なクライアントプリンタなし」というメッセージが表示されますか？	Webtop に「利用可能なクライアントプリンタなし」というメッセージが表示されていないこと、およびプリンタアイコンに赤い×印が付いていないことを確認します。これは SGD が、使用しているコンピュータまたはプリンタでの印刷をサポートしていないことを示しています。 SGD 管理者は、印刷を可能にすることができます。

上記のいずれによっても印刷の問題を解決できない場合は、SGD 管理者に連絡してください。

## 設定の変更

次の設定を変更するには、アプリケーション領域の「編集」ボタンをクリックします。

- クライアント設定
- アプリケーショングループ

## クライアント設定

SGD Client が起動するときには、プロファイルが使用されます。プロファイルとは、SGD Client を制御する一連の設定のことです。プロファイルの設定により、次の内容が定義されます。

- **SGD Client から SGD サーバーへの接続方法**。たとえば、接続先の URL や使用するプロキシサーバー。
- **SGD Client の動作モード**。たとえば、Webtop を表示するか、実行可能なアプリケーションのリストをデスクトップの「スタート」メニューまたは「起動」メニューに表示するか（統合モードと呼ばれる）。
- **SGD Client の動作**。たとえば、サーバーとの接続が失われた場合の動作。

接続する SGD サーバーごとにプロファイルを 1 つ割り当てることができます。

利用可能なクライアント設定については、[付録 C](#) を参照してください。

## プロファイルの編集

プロファイルを編集するには、SGD 管理者が SGD をそのように設定している必要があります。

プロファイルの編集は、Webtop 上でのみ行えます。Webtop のアプリケーション領域にある「編集」ボタンをクリックして、「クライアントの設定」タブをクリックします。

編集できるプロファイルは、自分のプロファイルだけです。また、現在接続している SGD サーバーのプロファイルだけを編集できます。

プロファイルを最初に編集するときには、SGD 管理者が設定した内容が表示されます。

プロファイルをシステムのデフォルト設定に戻すには、「リセット」ボタンをクリックします。

---

**注** - プロファイルに加えた変更を有効にするには、SGD からログアウトしてから再度ログインする必要があります。

---

## アプリケーショングループ

実行可能なアプリケーションのリストにアプリケーションの追加や削除を実行できるのは、SGD 管理者だけです。ただし、アプリケーションを Webtop にいつ、どのように表示するかは設定可能です。これを設定するには、グループを作成します。

グループは、類似のアプリケーションをグループにまとめたり、使用頻度があまり多くないアプリケーションを隠したりする場合に役立ちます。グループは、工夫次第でさまざまな用途に利用できます。

## ▼ グループを作成する方法

1. Webtop の「編集」ボタンをクリックします。

2. 「グループの編集」タブをクリックします。

3. 「新規グループの追加」ボタンをクリックします。

グループの名前を入力します。

「コンテンツの選択」で、グループに含めるアプリケーションおよびドキュメントのチェックボックスを選択します。

4. グループの表示オプションを設定します。

アプリケーションおよびグループを Webtop から隠すには、「ログイン時にこのグループを Webtop に表示する」の横のチェックボックスを選択解除します。

初回ログイン時に、グループの内容を隠してグループ名だけが表示されるようにするには、「ログイン時にこのグループのコンテンツを表示する」の横のチェックボックスの選択を解除します。

図 1-17 「グループの編集」タブによる新しいグループの作成

Name		
Enter name:	<input type="text" value="Office apps"/>	
Choose your content		
<input checked="" type="checkbox"/> Gnome Terminal (sgd-server-a2)	<input checked="" type="checkbox"/> Mozilla (sgd-server-a2)	<input type="checkbox"/> My Desktop
<input checked="" type="checkbox"/> StarOffice (sgd-server-a2)	<input type="checkbox"/> VT420 (sgd-server-a2)	<input checked="" type="checkbox"/> xclock (sgd-server-a2)
Set your display options		
<input checked="" type="checkbox"/> I want to see this group on my webtop when I log in		
<input checked="" type="checkbox"/> I want to see the contents of this group when I log in		
<input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="Save Group"/>		

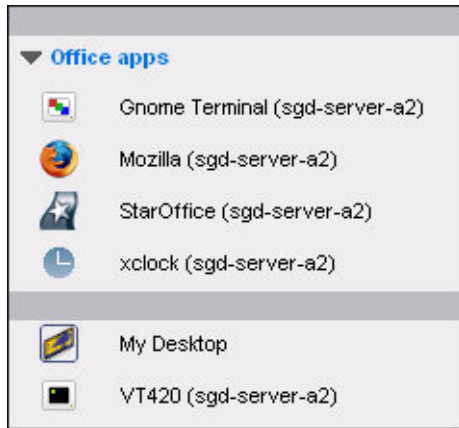
「グループの編集」タブによる新しいグループの作成

5. 「グループの保存」ボタンをクリックします。

6. 「アップデート」ボタンをクリックします。

作成した Webtop グループの名前は、Webtop 上に表示されます。

図 1-18 Webtop 上に表示されたグループ。グループのコンテンツが表示された状態

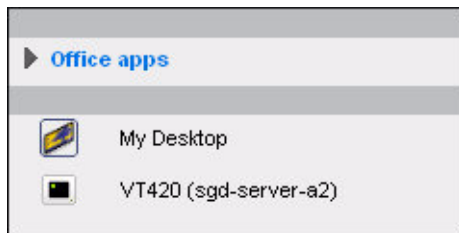


Webtop 上に表示されたグループのコンテンツ

どのアプリケーションがグループに含まれるかを示す区切り線も表示されます。

7. グループ内のアプリケーションの表示 / 非表示を切り替えるには、三角形をクリックします。

図 1-19 Webtop 上に表示されたグループ。グループのコンテンツが隠された状態



Webtop 上に表示されたグループ名

必要な数だけグループを追加できます。グループの変更や削除は、いつでも実行できます。変更を加えたあとで、「アップデート」をクリックする必要があります。



# デスクトップの「スタート」または「起動」メニューからの SGD の使用

デスクトップの「スタート」または「起動」メニューから SGD を使用できます。これは**統合モード**と呼ばれます。統合モードで SGD を使用する場合、アプリケーション起動用のリンクは、Webtop 上ではなくデスクトップの「スタート」または「起動」メニューに表示されます。つまり、コンピュータにインストールしたアプリケーションと同じように、SGD からアプリケーションを実行することができます。

## ▼ デスクトップの「スタート」または「起動」メニューに SGD を追加する方法

SGD をデスクトップの「スタート」または「起動」メニューに追加する場合は、通常は、最初にログインして Webtop を表示してから、プロファイルを編集する必要があります。

### 1. ブラウザを起動し、SGD のログイン URL にアクセスします。

SGD のログイン URL は `http://server.example.com/sgd` です。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。

### 2. ログインして Webtop を表示します。

### 3. プロファイルを次のように編集します。

- a. Webtop のアプリケーション領域にある「編集」ボタンをクリックして、「クライアントの設定」タブをクリックします。
- b. 「スタートメニューへのアプリケーションの追加」チェックボックスにチェックマークを付けます。
- c. デスクトップへのログイン時に SGD Client を起動するには、「システムログイン時に接続」チェックボックスを選択します。
- d. (省略可能) SGD Client の起動時に自動的に SGD にログインさせる場合は、「自動クライアントログイン」チェックボックスを選択します。  
自動ログインを使用できるかどうかは、SGD 管理者に問い合わせてください。
- e. (省略可能) プロキシサーバーの設定を行います。  
使用すべきプロキシサーバー設定については、SGD 管理者に確認してください。
- f. 「保存」をクリックします。

### 4. SGD からログアウトします。

## 「スタート」または「起動」メニューの操作

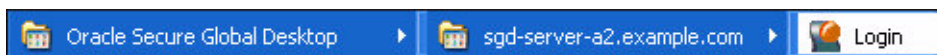
ここでは、デスクトップの「スタート」または「起動」メニューを使って、次の各タスクを実行する方法について説明します。

- ログイン
- アプリケーションの実行
- 印刷
- Webtop の表示
- アプリケーショングループの使用

### ログイン

デスクトップの「スタート」または「起動」メニュー上の「ログイン」リンクをクリックして、SGD にログインします。[図 1-20](#) を参照してください。

**図 1-20** デスクトップの「スタート」または「起動」メニューからのログイン



デスクトップの「スタート」または「起動」メニューからのログイン

---

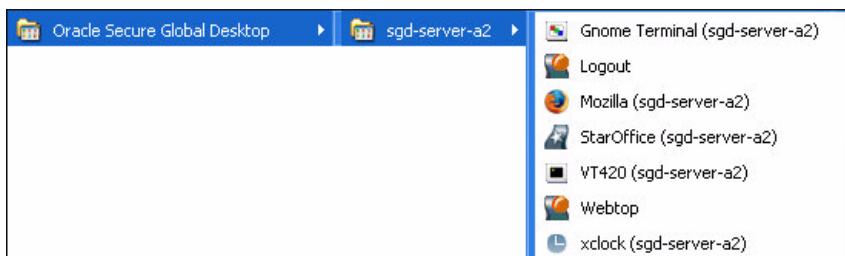
**注** - 複数の SGD サーバーにログインする場合は、各サーバーの「ログイン」リンクが「スタート」または「起動」メニュー内に表示されます。

---

SGD にログインすると、「スタート」または「起動」メニュー内の、SGD から実行可能なアプリケーションのリンクが更新されます ([図 1-21](#) を参照)。

SGD を統合モードで使用するには、常に「スタート」または「起動」メニューを使用してログインします。ブラウザを起動してログインしても、「スタート」または「起動」メニューにアプリケーションは表示されません。

**図 1-21** デスクトップの「スタート」または「起動」メニュー内の Webtop コンテンツリンク



デスクトップの「スタート」または「起動」メニューのリンク

## Webtop の表示

プロファイルの編集、中断しているアプリケーションの再開、印刷の管理などの目的で、Webtop を表示する必要がある場合は、「スタート」または「起動」メニューの「Webtop」リンクをクリックします。ユーザーのデフォルトブラウザに Webtop が表示されます。

## アプリケーションの実行

アプリケーションを起動するには、「スタート」または「起動」メニューに表示されたアプリケーションのリンクをクリックします。アプリケーションの別のインスタンスを起動する場合は、リンクを再度クリックします。

Webtop とは異なり、アプリケーションを個別に中断および再開することはできません。実行中のアプリケーションは、SGD からログアウトする際に、再開機能の設定内容によって中断または終了されます。[12 ページの「アプリケーションの中断と再開」](#)を参照してください。再度ログインすると、中断していたアプリケーションが自動的に再開されます。

SGD によるアプリケーションの実行方法の詳細については、[10 ページの「アプリケーションの使用」](#)を参照してください。

## 印刷

「スタート」または「起動」メニューから印刷ジョブを個別に管理することはできません。印刷ジョブは選択したプリンタに直接送信されます。

SGD による印刷方法の詳細については、[16 ページの「印刷」](#)を参照してください。

## アプリケーショングループの使用

Webtop コンテンツをグループで表示するように設定した場合は、「スタート」または「起動」メニューでもそれらのグループが使用されます。Webtop コンテンツを表示しないように設定されているグループは、「スタート」または「起動」メニューにコンテンツは表示されません。

---

## My Desktop の使用

My Desktop は、Webtop を表示せずに、ログインして全画面デスクトップアプリケーションを表示できるようにする機能です。

My Desktop には、SGD 管理者がユーザーに対して設定したデスクトップアプリケーション (Microsoft Windows デスクトップなど) が表示されます。

My Desktop を起動するには、SGD Web サーバーの開始画面 (<http://server.example.com>) で「My Desktop」リンクをクリックします。このリンクを開くと、SGD のログインページが表示されます。一度ログインすると、My Desktop の全画面デスクトップアプリケーションが表示されます。

My Desktop を起動するもう一つの方法は、<http://server.example.com/sgd/mydesktop> にアクセスすることです。

My Desktop を起動したあとは、ブラウザウィンドウを閉じてかまいません。

---

**注** - My Desktop アプリケーションを中断または再開することはできません。デスクトップアプリケーションから通常どおりにログアウトする必要があります。

---

印刷ジョブを一時停止した場合、ログイン時に、印刷を再開できるようにするメッセージがブラウザウィンドウに表示されます。

## ログアウト

SGD Webtop を使用しているか、それともデスクトップの「スタート」または「起動」メニューから SGD を使用しているかによって、ログアウトの手順が異なります。

## SGD Webtop からのログアウト

ブラウザを閉じる前に、必ず SGD からログアウトしてください。

Webtop 上の「ログアウト」ボタンをクリックし、確認を要求されたら「了解」をクリックします。[図 1-22](#) を参照してください。

**図 1-22** Webtop 上の「ログアウト」ボタン



「ログアウト」ボタン

## 「スタート」または「起動」メニューによるログアウト

統合モードの SGD からログアウトするには、「スタート」または「起動」メニューの「ログアウト」リンクをクリックします。



# SGD Client の手動インストール

---

Java テクノロジーが有効になっていないブラウザで Oracle Secure Global Desktop (SGD) を使用するには、SGD Client を手動でダウンロードして、コンピュータにインストールする必要があります。その後、SGD Client を手動で起動し、SGD サーバーに接続されるように設定します。

---

## SGD Client のインストール

通常は、Java テクノロジーを有効にしたブラウザを使ってユーザーが SGD サーバーに接続すると、SGD Client が自動的にインストールされます。SGD Client を手動でインストールする場合にだけ、ここで説明する手順に従ってください。

Microsoft Windows プラットフォームで SGD Client をインストールするには、管理者権限が必要です。

Microsoft Windows プラットフォームの場合、SGD Client はデフォルトでは C:\Program Files\Sun\Secure Global Desktop Client ディレクトリにインストールされますが、ソフトウェアのインストール時に別のインストールディレクトリを選択できます。SGD Client のショートカットが Windows 「スタート」メニューに追加されます。

UNIX プラットフォームと Linux プラットフォームの場合、SGD Client はデフォルトでは \$HOME/bin ディレクトリにインストールされますが、ソフトウェアのインストール時に別のインストールディレクトリを選択できます。

---

**注** - Mac OS X クライアントプラットフォームでは、手動インストールを行うことができません。

---

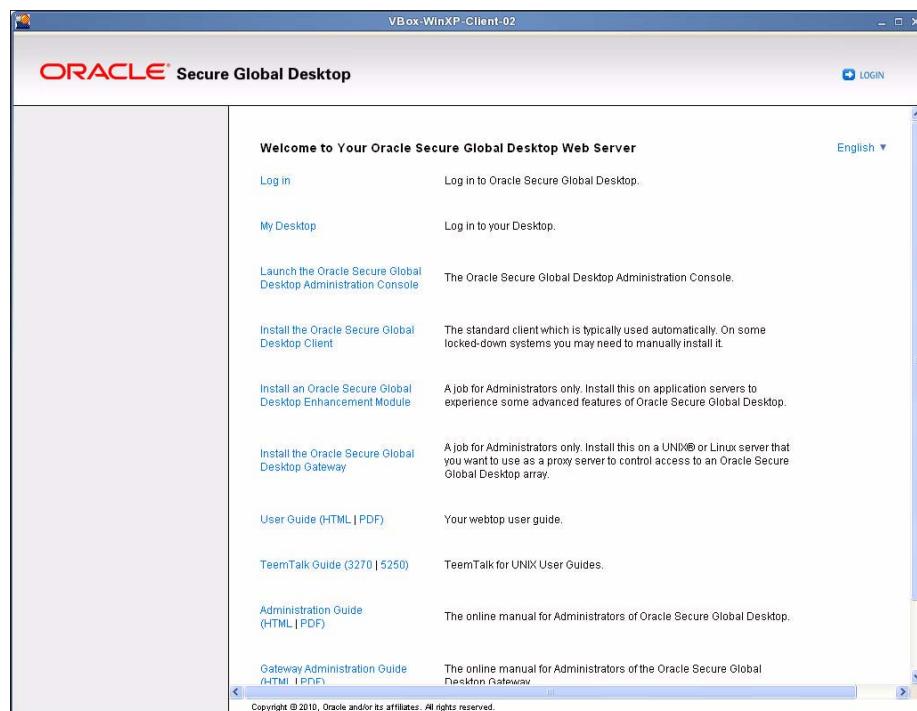
## ▼ Microsoft Windows プラットフォームに SGD Client を手動でインストールする方法

### 1. ブラウザで、SGD Web サーバーにアクセスします。

たとえば、<http://server.example.com> にアクセスします。

SGD Web サーバーの開始画面が表示されます (図 A-1 を参照)。

図 A-1 SGD の開始画面



開始画面

### 2. (省略可能) 使用する言語を選択します。

言語リストから言語を選択します。

開始画面が選択した言語で表示されます。

### 3. 「Oracle Secure Global Desktop Client のインストール」をクリックします。

「Oracle Secure Global Desktop Client」ページが表示されます。



**4. SGD Client インストールプログラムをダウンロードします。**

「Secure Global Desktop Client for Microsoft Windows のダウンロード」をクリックします。

PC 上の一時ディレクトリにインストールプログラムを保存します。

SGD Client インストールプログラムは `sgdcwin-lang.exe` です。ここで、*lang* は選択した言語です。

**5. 一時ディレクトリに移動し、SGD Client をインストールします。**

`sgdcwin-lang.exe` をダブルクリックし、画面に表示される指示に従います。

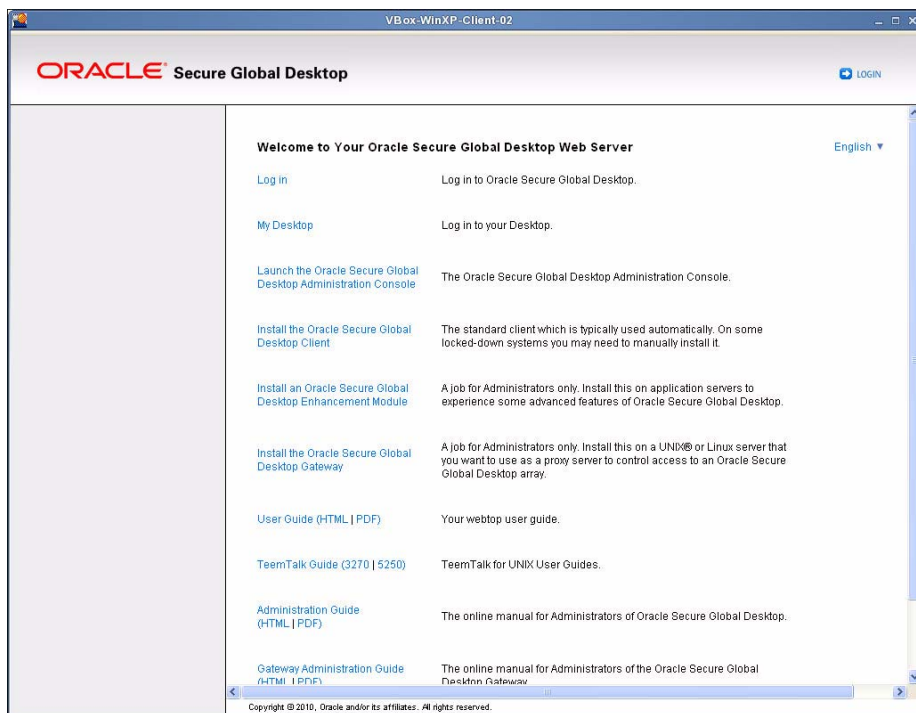
## ▼ Solaris OS プラットフォームおよび Linux プラットフォームに SGD Client を手動でインストールする方法

**1. ブラウザで、SGD Web サーバーにアクセスします。**

たとえば、`http://server.example.com` にアクセスします。

SGD Web サーバーの開始画面が表示されます (図 A-2 を参照)。

図 A-2 SGD の開始画面



開始画面

2. (省略可能) 使用する言語を選択します。

言語リストで言語をクリックします。

開始画面が選択した言語で表示されます。

3. 「Oracle Secure Global Desktop Client のインストール」をクリックします。

「Oracle Secure Global Desktop Client」ページが表示されます。

4. SGD Client の tar ファイルをダウンロードします。

「*platform* 版の Secure Global Desktop Client」をクリックします。ここで、*platform* は使用しているコンピュータプラットフォームのオペレーティングシステムです。

コンピュータ上の一時ディレクトリに tar ファイルを保存します。

tar ファイルの名前は、次のようにプラットフォームを示しています。

- sgdci3so.tar (x86 プラットフォーム版 Solaris™ Operating System (Solaris OS) の場合)
- sgdcspso.tar (SPARC® テクノロジプラットフォーム版 Solaris OS の場合)
- sgdci3li.tar (Linux プラットフォームの場合)

5. 一時ディレクトリに移動し、tar ファイルを展開します。

```
$ cd /tmpdir
$ tar xvf tarfile
```

6. SGD Client をインストールします。

```
$ sh sgdc/install
```

画面に表示される指示に従ってください。

---

## SGD Client の起動

UNIX プラットフォームと Linux プラットフォームの場合は、SGD Client を ttatcc コマンドで手動で起動します。

Microsoft Windows プラットフォームの場合は、SGD Client をインストールの一部として起動するか、「スタート」→「すべてのプログラム」→「Oracle Secure Global Desktop」→「ログイン」の順にクリックして SGD Client を手動で起動します。

### ▼ SGD Client を設定する方法

SGD Client の初回起動時に、次の情報を入力するよう求められます。

- 接続先の SGD サーバーの URL (Uniform Resource Locator)。これは通常、`http://server.example.com/sgd` です。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。
- 使用するプロキシ設定。デフォルトのブラウザから設定を引き継ぐことも (Java テクノロジが必要)、自分で設定を入力することもできます。

1. SGD Client を初めて起動します。

- UNIX および Linux プラットフォームの場合：

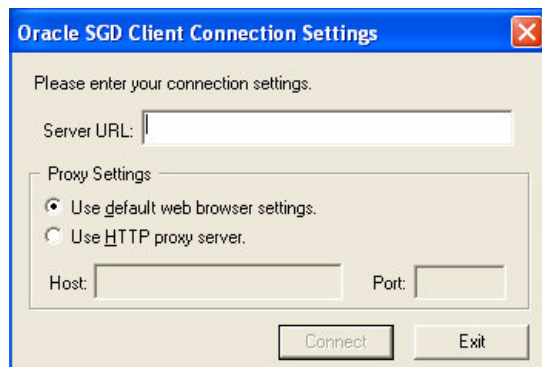
```
$ cd $HOME/bin
$ sh ttatcc
```

- Windows プラットフォームの場合：

「スタート」→「すべてのプログラム」→「Oracle Secure Global Desktop」→「ログイン」の順にクリックします。

「クライアント接続設定」ダイアログボックスが表示されます。図 A-3 を参照してください。

図 A-3 「クライアント接続設定」ダイアログボックス



クライアントの設定

2. SGD サーバーのサーバー URL を入力します。

3. 「Proxy Settings」のオプションを選択します。

「Use HTTP Proxy Server」オプションを選択した場合は、提供されたフィールドにプロキシサーバーのホスト名とポートを入力します。

4. 「接続」ボタンをクリックして SGD サーバーに接続します。

デフォルトのブラウザが読み込まれ、SGD ログインダイアログが表示されます。

5. SGD にログインします。

SGD ログインダイアログで、SGD のユーザー名とパスワードを入力します。

「ログイン」ボタンをクリックして SGD にログインします。

6. SGD からログアウトします。

SGD Webtop メニューバー上の「ログアウト」ボタンをクリックします。

ユーザーが入力したクライアント接続設定は、SGD Client によって、この SGD サーバーへの後続のすべての接続で使用されます。

## 付録B

---

### 詳細設定

---

この付録には、Oracle Secure Global Desktop (SGD) の上級ユーザー向けの設定情報が含まれています。

詳細設定の内容は、次のとおりです。

- [37 ページの「クライアント設定」](#)
- [39 ページの「印刷」](#)
- [40 ページの「コンピュータ上のドライブへのアクセス」](#)

---

### クライアント設定

SGD Client の次の設定の一部を変更できます。

- ログインページの URL (Uniform Resource Locator)
- 言語
- プロキシ設定
- PDF (Portable Document Format) ビューア

「クライアントの設定」タブを表示するには、Webtop のアプリケーション領域にある「編集」ボタンをクリックします。ユーザーが編集できるのは、現在接続されている SGD サーバーに対するクライアント設定だけです。

---

**注** - ユーザー独自のクライアント設定の変更をユーザーに許可するかどうかは、SGD 管理者が決定します。

---

## ログインページの URL の変更

SGD サーバー上のログインページの場所を指定するには、「ログイン URL」設定を使用します。

このクライアント設定は、デスクトップの「スタート」または「起動」メニューから SGD にログインする場合に適用されます。

ログイン URL は通常、`http://server.example.com/sgd/index.jsp` です。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。

## 言語の変更

ログインページや画面上のメッセージで使用する言語を指定するには、「言語の選択」設定を使用します。

このクライアント設定は、デスクトップの「スタート」または「起動」メニューから SGD を使用する場合に適用されます。

## プロキシ設定の変更

SGD Client によって使用されるプロキシサーバーを指定するには、「クライアントの設定」タブの「プロキシ」セクションの設定を使用します。

デフォルト設定では、ブラウザと同じプロキシサーバー設定を使用するようになっています。しかし、HTTP プロキシサーバーの手動設定を入力することもできます。

## 代替 PDF ビューアの指定

UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームのコンピュータ上で PDF ファイルを印刷する場合、その PDF ファイルは通常、そのコンピュータのデフォルトの PDF ビューアを使って表示されます。

これを上書きするには、「代替 PDF ビューア」設定に別の PDF ビューアを指定します。代替 PDF ビューアのアプリケーションコマンドを入力します。アプリケーションが PATH 上に存在しない場合は、アプリケーションのフルパス名を入力します。

# 印刷

UNIX、Linux、または Mac OS X コンピュータを使用している場合は、SGD 管理者による設定を上書きし、そのコンピュータ上のプリンタを設定することができます。

## クライアントプリンタの設定

SGD 管理者は通常、ユーザーが使用できるクライアントプリンタの設定を行います。しかし、UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームのコンピュータから印刷を行う場合は、そうした設定を上書きし、ユーザー独自のクライアントプリンタを設定することができます。そうするには、ホームディレクトリ内のクライアントプリンタ設定ファイル `$HOME/.tarantella/printerinfo.txt` 内で、それらを定義します。このファイルはデフォルトではインストールされません。このファイルを作成するか、あるいはインストールおよび編集可能なテンプレートファイルを SGD 管理者から入手する必要があります。

プリンタ設定ファイルの形式は次のとおりです。

```
[UNIX]
"printer_name" = "windows_driver" printer_type
"printer_name" = "windows_driver" printer_type...
```

`printer_name` は、コンピュータ上の `lp` または `lpr` システムに認識されているプリンタの名前です。

`windows_driver` は、Microsoft Windows アプリケーションサーバーから印刷を行う場合に使用するプリンタドライバの名前です。

`printer_type` は、印刷ジョブに使用される形式です。有効な値は `PostScript`、`PCL`、`Text` です。

クライアントプリンタ設定ファイルの例は、次のとおりです。

```
[UNIX]
"drafts" = "HP DeskJet 970Cxi" PCL
"salesprinter" = "HP LaserJet 5/5M" PostScript
```

ここでは、2 つのクライアントプリンタ `drafts` と `salesprinter` が定義されています。この場合、次のコマンドを使えば、UNIX プラットフォームアプリケーションから `salesprinter` に印刷することができます。

```
$ lp -d salesprinter file
```

---

## コンピュータ上のドライブへのアクセス

SGD 管理者は、SGD 経由で実行中のアプリケーションから使用しているコンピュータ上のドライブにアクセスできるようにするかどうかが設定します。

UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームのコンピュータを使用している場合は、デフォルトで、ホームディレクトリが「My Home」と呼ばれるドライブにマップされます。しかし、ユーザーはアプリケーションで使用するドライブを設定できます。そうするには、クライアント設定ファイル

\$HOME/.tarantella/native-cdm-config を編集します。このファイルは、SGD Client のインストール時に自動的に作成されます。このファイルには、マップされたドライブの作成方法に関する詳細な手順が含まれています。

この設定ファイルには、<path> <type> <label> という形式のエントリが含まれます。ここで、各要素は次のとおりです。

- <path> は、クライアントファイルシステムの絶対パス名です
- <type> は、unknown、fixed、floppy、cdrom、remote のいずれかです。
- <label> は、アプリケーションセッションで使用される名前です

ドライブごとに改行し、フィールド間は空白かタブで区切ります。空白やタブを含む <path> フィールドまたは <label> フィールドは、引用符で囲みます。

<path> フィールドと <label> フィールドでは、環境変数を使用できます。それらはドル記号 (\$) で区切ります。リテラルの \$ を使用するには、それをもう 1 つの \$ でエスケープします。

設定ファイルの例を、次に示します。

```
[CDM]
$HOME$ fixed "My Home"
/tmp/$USER$ fixed Temp
"/mnt/win/My Documents" fixed "My Local Documents"
[/CDM]
```

---

**注** - 設定ファイルに加えた変更は、いったんログアウトしてから SGD にログインするまで有効になりません。

---

マップされたクライアントドライブのアクセス権限は、ドライブ名のあとの括弧内に示されます。(rw) は読み取り / 書き込みアクセスを意味し、(ro) は読み取り専用アクセスを意味します。



# 取り外し可能ドライブの使用

SGD の使用中に USB (Universal Serial Bus) メモリースティックなどの取り外し可能ドライブを取り付けると、そのデバイスは自動的に検出され、使用できる状態になります。

取り外し可能ドライブを使用するには、SGD 管理者が取り外し可能ドライブのサポートを有効にする必要があります。

UNIX および Linux プラットフォームのクライアントデバイスでは、取り外し可能デバイスが自動的に検出されない場合、取り外し可能デバイスがないか、\$HOME/.tarantella/native-cdm-config 設定ファイルの [DYNAMICSTORAGE] セクションに一覧表示されている場所が監視されます。クライアントプラットフォームに応じて、次のデフォルトのシステムの場所がこのファイルの [DYNAMICSTORAGE] セクションに一覧表示されます。

クライアントプラットフォーム	デフォルトの場所	タイプ
Linux	/media	removable
Solaris OS	/rmdisk	removable
	/cdrom	cdrom
Sun Ray	\$DTDEVROOT/mnt	removable
Mac OS X	/Volumes	removable

取り外し可能ドライブが別の場所で使用されている場合は、[DYNAMICSTORAGE] セクションに 1 つまたは複数のエントリを追加します。たとえば、次のエントリにより、SGD は、クライアントプラットフォームのデフォルトの場所に加えて、取り外し可能ドライブの /opt ディレクトリを監視するようになります。

```
[DYNAMICSTORAGE]
...
/opt removable
[/DYNAMICSTORAGE]
```



## 付録 C

# プロフィールの設定

---

この付録では、プロフィールで設定可能な項目について説明します。

---

## プロフィール設定の説明

SGD Client が起動するときには、「プロフィール」が使用されます。プロフィールとは、SGD Client を制御する一連の設定のことです。

次の表で、プロフィールの設定とその機能について説明します。

設定に関して不明な点がある場合は、SGD 管理者に問い合わせてください。

設定内容	説明
ログイン URL	<p>プロファイルに使用する SGD の Uniform Resource Locator (URL)。これは通常、<code>http://server.example.com/sgd</code> です。ここで、<code>server.example.com</code> は SGD サーバーの名前です。</p> <p>ブラウザを使って SGD Webtop を表示する場合は、デフォルトのブラウザにこの URL が自動的にロードされ、Webtop にログインしてアクセスできる状態になります。</p> <p>統合モードでは、URL がデフォルトのブラウザにロードされるのは、SGD にログインする必要がある場合だけです。</p> <p>デフォルトのログイン URL は、<code>http://server.example.com/sgd/index.jsp</code> です。</p>
システムログイン時に接続	<p>有効な場合、コンピュータにログインするたびに、SGD Client がこのプロファイルを使用して自動的に起動します。</p> <p>これを有効にすると、アプリケーションのショートカットまたはシンボリックリンクが、SGD Client によりデスクトップシステムのスタートアップフォルダ内に作成されます。</p> <p>デフォルトでは、この機能は無効になっています。</p>
「スタート」メニューへのアプリケーションの追加	<p>SGD の使用方法を制御します。</p> <p>有効な場合、実行可能なアプリケーションが、コンピュータのデスクトップの「スタート」または「起動」メニューに表示されます。これは統合モードと呼ばれます。</p> <p>無効な場合、実行可能なアプリケーションがブラウザの Webtop に表示されません。</p> <p>統合モードでは、アプリケーションを個別に中断および再開したり、印刷ジョブを個別に一時停止および再開したりすることはできません。</p> <p>デフォルトでは、この機能は無効になっています。</p>
自動クライアントログイン	<p>有効な場合、SGD Client が起動するとすぐに SGD に自動的にログインしようとしています。自動ログインが使用されるかどうかは、管理者に問い合わせてください。</p> <p>このオプションを有効にできるのは、「「スタート」メニューへのアプリケーションの追加」設定が有効な場合だけです。</p> <p>デフォルトでは、この機能は無効になっています。</p>
代替 PDF ビューア	<p>PDF 印刷で使用する代替 PDF (Portable Document Format) ビューア用のアプリケーションコマンド。</p> <p>アプリケーションが PATH に存在しない場合は、アプリケーションのフルパスを入力します。</p> <p>この設定が適用されるのは、UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームのコンピュータだけです。</p>
ログ	<p>SGD Client ログファイルに出力される情報量を制御します。</p> <p>出力は、SGD Client と同じディレクトリ内にテキストファイルで保存されます。</p> <p>デフォルトは、「エラーのみ」です。</p>

設定内容	説明
言語の選択	<p>SGD Client がコマンド行から起動される際に使用すべきデフォルト言語。たとえば、SGD Client が統合モードの場合など。</p> <p>選択した言語は、SGD Client 、ログインダイアログ、および Webtop で表示されるメッセージで使用されます。</p> <p>デフォルトは英語です。</p>
ローカル X サーバーの確認	<p>有効な場合、コンピュータ上で動作している X サーバーがあるかどうかを SGD Client が確認します。</p> <p>コンピュータ上で X サーバーを使って表示するように X アプリケーションが設定されているときは、このオプションを有効にすると、X アプリケーションの起動時のパフォーマンスが向上します。</p> <p>この設定は、Windows コンピュータにだけ適用されます。</p> <p>デフォルトでは、この設定は無効になっています。</p>
プロキシ設定	<p>この設定により、SGD Client が使用するプロキシサーバーの決定方法が制御されます。</p> <p>デフォルトの Web ブラウザ設定を使用すると、デフォルトブラウザ内のプロキシサーバー設定が使用されます。</p> <p>手動プロキシ設定を使用すると、プロファイルにプロキシサーバー設定を定義できます。ハイパーテキスト転送プロトコル (HTTP) プロキシサーバーを指定できます。</p> <p>ブラウザ上でプロキシを設定すると、設定が保存され、SGD Client の次回起動時に使用されます。</p> <p>「セッション開始時にプロキシ設定を確立する」が有効になっている場合は、SGD Client が起動するたびに、ブラウザからプロキシ設定が取得されます。保存済みのプロキシ設定は使用されません。「自動クライアントログイン」が選択されている場合は、「セッション開始時にプロキシ設定を確立する」設定を使用できません。</p> <p>デフォルトでは、「デフォルトの Web ブラウザ設定を使用する」チェックボックスが選択され、「セッション開始時にプロキシ設定を確立する」チェックボックスは選択されていません。</p>
接続障害	<p>SGD サーバーへの接続が失われた場合の、SGD Client の動作を制御する設定 (常に再接続する、再接続しない、接続するかどうかを確認する、のいずれか)。</p> <p>再接続する場合、これらの設定により、接続試行回数および接続試行間隔 (秒単位) が制御されます。</p> <p>再接続できない場合、Webtop セッションは終了します。実行中のアプリケーションは、事前の設定内容に応じて終了または中断します。</p> <p>デフォルトの設定は「常に再接続を試行する」で、試行回数は 6、間隔は 10 です。</p>

## 統合モード動作の設定

「クライアントの設定」タブの次の各設定は、SGD の統合モード動作の設定に使用されます。

- システムログイン時に接続
- 自動クライアントログイン
- 「スタート」メニューへのアプリケーションの追加

詳細については、[25 ページの「デスクトップの「スタート」または「起動」メニューからの SGD の使用」](#)を参照してください。

# 用語集

---

---

## A

### アプリケーション

サーバー上で実行するプログラム。SGD を使うと、任意のコンピュータ上でブラウザを使ってアプリケーションにアクセスできます。

---

## B

### ブラウザ

SGD にアクセスするためにコンピュータ上で起動するソフトウェア。たとえば、Microsoft Internet Explorer や Mozilla Firefox。

---

## I

### 統合モード

デスクトップの「スタート」または「起動」メニューから SGD を実行する場合の動作モード。アプリケーションを起動するには、「スタート」または「起動」メニュー内のリンクをクリックします。

---

## L

**リンク** Webtop 上のドキュメントおよびアプリケーションに対するアクセスを提供します。通常は、ラベルの付いたアイコンです。

---

## P

**パスワード** 一式の秘密の文字列であり、ユーザー名と一緒にユーザーの ID をサーバーに対して証明します。サーバーごとに、別々のパスワードとユーザー名を設定することができます。

**プロフィール** SGD Client を制御する一群の設定。

---

## S

**サーバー** ほかのコンピュータにサービスを提供するコンピュータまたはソフトウェア。SGD サーバーを使えば、Webtop を表示できます。Webtop 上に一覧表示されたアプリケーションを実行するサーバーも存在します。

**SGD 管理者** SGD の設定、ユーザーの Webtop へのリンク配置、およびアプリケーションのセットアップができる人。

**SGD サーバー** ブラウザを使ってユーザーの Webtop を表示するためにユーザーがログインする SGD ソフトウェア。

---

## U

**ユーザー名** サーバーがユーザーを識別するのに使う一意の名前。サーバー別に、別々のユーザー名を設定することができます。



---

# W

## **Webtop**

SGD にログインすると表示される特別な Web ページ。Webtop はアプリケーションへのアクセスを提供します。

